

寄附講座の研究活動について

平成25年9月24日
公立大学法人福島県立医科大学

第1 趣 旨

寄附講座は、企業等からの寄附金を財源として運営しているため、既存の講座等と比較し、より一層の講座運営の透明性、研究活動の実績や成果が求められています。

このことから、本学においては、研究活動等に係る定例報告や研究活動・成果報告会の開催など、適切な講座運営や研究成果の確保を図るための取組みを推進しています。

(1) 研究活動等に係る定例報告

研究活動（研究達成度の自己評価、今後の方針、学会発表・論文実績等）や会計（支出状況や高額支出の運営管理状況）について、定期的（翌年度の4月）に報告を受け、必要に応じて助言等を行うなど、大学としてのチェック機能を担保することにより、運営管理体制のさらなる可視化と円滑で適切な講座運営を推進しています。

(2) 研究活動・成果報告会

寄附講座の研究活動、成果（論文、特許等）、今後の計画等について、本学教職員・学生、寄附者様、関連企業、県内大学関係者等を参集し、年1回（毎年3月頃）報告会を開催しています。

(3) 寄附講座だより

各寄附講座の研究活動・成果について学内外へ周知するため、年1回（毎年3月頃）発行しています。

(4) 寄附講座の研究活動の推進について

寄附講座の研究活動を推進し、より効果的な成果を上げられるよう支援するため、研究活動に係る寄附講座からの定例報告を基礎として、研究推進戦略室において寄附講座アドバイザーの皆様を始め寄附者様や外部有識者の意見や評価をお聴きし、幅広い視点や知見から研究活動の評価や助言等を行っています。

第2 平成24年度における寄附講座の研究活動について

1 各寄附講座の研究活動について

(1) 各寄附講座の活動状況

寄附講座 (設置期間)	研究テーマ	主な研究活動の状況
臨床ゲノム 学講座 { H20. 12. 15 ~ H24. 10. 31 }	がんを中心とした臨床 検体の網羅的遺伝子発 現解析	○多数・多種類のがん組織の網羅的遺伝子発現解析 ○創薬や診断薬の開発に有用な新規マーカー遺伝子 群を抽出し、産業界へ橋渡し ○基礎・臨床・企業が密接に連携して「がん個別医療」 を推進する体制の構築に貢献

腫瘍生体 治療学講座 〔H22. 1. 1 ～H24. 12. 31〕	がん患者の適切な免疫 化学療法に関する研究	○大腸がん術後免疫化学療法の多施設共同臨床試験 ○がんにおける免疫抑制と栄養障害に関する基礎的 研究
医療工学 講座 〔H22. 4. 1 ～H25. 3. 31〕	バイタルサイン計を組 み込んだ患者回診支援 装置の開発 H22～23年度：カフ (圧迫帯) 無し連続血 流・血圧計の開発	○新方式のバイタルサイン計との連携として、豊橋技 術科学大学と共同で病棟回診支援装置(回診支援ロボ ット)の研究試作(H24年度) ○光センサーによる脈波測定を基本とする非侵襲型 バイタルサイン計の方式研究(H22～23年度)
心臓病先進 治療学講座 〔H23. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	心臓病に合併する睡眠 時無呼吸症候群の診療 体制の構築	○心臓病に合併する睡眠時無呼吸症候群(特に心不全 に合併するチェーン・ストークス呼吸)に関する病 態・治療方法等についての検査・研究
慢性腎臓病 (CKD) 病態 治療学講座 〔H24. 4. 1 ～H27. 3. 31〕	慢性腎臓病(CKD)の 集約的治療法の開発と 地域医療連携システム の構築	○CKDの病態解析 ○CKDとその合併症に対する集約的治療法の検討 ○県内CKD患者の登録システムの構築 ○CKD関連の公的班研究への参画 ○一般・医療関係者に対するCKDの啓発
周産期・小児 地域医療 支援講座 〔H24. 4. 1 ～H27. 3. 31〕	周産期・小児医療支援 システムの構築と地域 密着型後期研修プログ ラムの研究及び開発	○須賀川地方の周産期・小児医療に関する医療統計 ○小児科及び産婦人科医療の受療動向の調査 ○診療応援、小児科及び産婦人科医師育成のためのプ ログラムの研究及び開発
災害医療 支援講座 〔H24. 4. 1 ～H28. 3. 31〕	災害医療に関する研 究、被災地の医療ニー ズの研究	○被災地の医療に対する住民のニーズ及び受療動向 に関する調査 ○被災地の医療機関に対する診療応援
不整脈先端 治療学講座 〔H25. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	不整脈の最先端診療体 制の構築	以下のテーマに基づき、研究を開始した。 ①植え込み型デバイスによる心臓病の管理法の確立 ②テラメイト®のカテーテルアブレーション法の開発 ③致死性不整脈、心臓突然死のリスク層別化指標の確立
腫瘍生体 エレクトロ ニクス講座 〔H25. 1. 1 ～H27. 12. 31〕	がん患者の免疫化学療 法及び関連する生体計 測に関する研究	以下の内容により研究を行っていく。 ①腫瘍生体治療分野 腫瘍生体治療学講座で行っていた癌患者における 免疫学的検討、栄養学的評価等に関する継続的研究 ②エレクトロニクス分野 生体計測(測定センサー等)とその組込み機構を、 マイクロメカニカル技術で構築する手法

2 研究活動の評価について

各寄附講座の研究活動報告（自己評価）を基礎として、寄附者様及び寄附講座アドバイザーの皆様のご意見・評価を踏まえ、研究活動の評価を取りまとめました。

寄附者様及び寄附講座アドバイザーの皆様からは、全般的に、設置計画等に沿って適切に研究活動が展開されているなど、概ね肯定的な意見をいただいたほか、世界水準で学問的価値の高い研究活動である等の高い評価を受けた講座もありました。

また、各講座の優れた研究活動・成果について、ホームページ等において積極的に情報発信するよう助言もありました。

(1) 評価者

- ア 寄附者様・・・・・・・・・・・・・回答数30／全寄附者様数33
- イ 寄附講座アドバイザー・・・・学外有識者3名
- ウ 研究推進戦略室・・・・・・・・・・・・・室長等3名

(2) 各寄附講座の評価結果

寄附講座	自己評価	評価	優れた点（主なもの）
臨床ゲノム学講座	A	A	○着実にプロファイルの取得を積み上げており、寄附目的に沿った適切な研究活動が展開されており、期待通り、またはそれ以上の研究成果を上げていると認められる。 ○世界中で進められている膨大ながんゲノム研究と比較しても見劣りしないものであり、学問的に価値の高い、competitiveな活動を繰り広げている。
腫瘍生体治療学講座	A	A	○寄附目的に沿った適切な研究活動が遂行され、寄附者様の期待に沿った十分な研究成果を上げたものと判断する。
医療工学講座	S	A	○変更後のテーマについては、試作した回診支援装置が日常診療への展開を期待できるなど、成果が得られたものと判断する。
心臓病先進治療学講座	A	A	○SASに対するASVの効果等について多くの検証・改善を実証し、その成果を数多くTop Journalに発表するなど、寄附目的及び設置計画に沿った十分な成果を上げている。
慢性腎臓病（CKD）病態治療学講座	S	S	○着実にデータベースを構築するなど、設置目的に沿った研究活動が実施され、寄附者様の期待どおり、またはそれ以上の成果・実績をあげているものと認められる。
周産期・小児地域医療支援講座	A	A	○寄附目的に沿った研究が行われており、須賀川地方における周産期・小児医療の実態と問題点が明確にされた。また、遠隔医療ネットワークの構築など、今後の計画が実現されることにより、同地方の周産期・小児医療はより充実するものと期待される。
災害医療支援講座	A	A	○柔軟な発想と現場に根差した医療活動の展開により、被災地の医療体制の充実に関して大いに寄与している。 ○適切な研究活動により相双エリアの現状と課題が浮かび上がり、被災地の地域医療の充実が期待できる。
不整脈先端	A	A	○研究者の高い能力が遺憾なく発揮され、質の高く実効的な研

治療学講座			究が展開されており、設置から短期間に成果を上げている。
腫瘍生体 エレクトロ ニクス講座	A	B	○講座設置から間もないものの、腫瘍生体治療学講座の研究を継続して、症例数を増やしていくという方向性は明確で、寄附者様の期待に添うものと思える。 ○がん患者の免疫低下に新たな知見を見出している。

【注】評価 ※ (%) は進捗状況・達成状況のイメージ

- | |
|---|
| <p>S・・・優れている。(計画の100～120%程度)</p> <p>A・・・評価できる。適切である。(計画の80～100%程度)</p> <p>B・・・やや改善を要する。(計画の60～80%程度)</p> <p>C・・・改善を要する。計画を実施できていない。(計画の60%未満)</p> |
|---|

3 助言等について

各寄附講座の研究活動を推進するとともに、より効果的な成果を上げられるよう、寄附者様及び寄附講座アドバイザーの皆様等から以下のような助言等がありました。

(1) 助言等の概要

- ① 研究計画の目標達成度を把握するための指標 (KPI 等) の設定や寄附者様の意向を踏まえた研究計画の策定等、研究の手法や研究の進捗管理・評価方法等についての具体的な提言がありました。 【心臓病、CKD】
- ② 研究の進捗状況や成果、研究体制の変化等について、寄附者様との間でこれまで以上に情報共有を図るよう求める助言がありました。 【臨床ゲノム、心臓病、不整脈、エレクトロニクス】
- ③ 研究活動に関連する医療機器等の開発・製造については、本県の医療機器関連産業の振興の観点から、県内企業との連携・活用について留意するよう意見がありました。 【臨床ゲノム、医療工学、心臓病、エレクトロニクス】
- ④ 各寄附講座の研究活動・成果について、積極的に情報発信するよう意見がありました。 【臨床ゲノム、CKD、災害医療、不整脈】

(2) 各寄附講座における助言等への対応について

助言等への対応について、各寄附講座より以下のような報告がありました。

- ① 研究の手法・評価等については、重要業績評価指標の導入等の対応策が示されました。
- ② 寄附者様との情報共有については、連絡回数の増や発表論文の報告等の対応策が示されました。
- ③ 県内企業との連携・活用については、成果物の事業化等について県内企業から提案があれば対応を検討すること、また、県内企業との接点を活用する等の対応案が示されました。
- ④ 各寄附講座の研究活動・成果の発信については、医学雑誌、学会、マスメディアの活用及び寄附者様を通じた情報発信等、これまで以上に研究成果の発信を図る等の対応策が示されました。